



北鎌倉台峯 緑の会

(旧 北鎌倉の景観を後世に伝える基金)

北鎌倉だより

会報 通算45号(第2期1号)

2025年7月



<山歩き風景 2025/4/20 小谷一夫氏撮影>

名実とも新たに

目次

■ 当会名称の変更について	2	■ 台峯の周辺 ㊥ いちご	6
■ 当会報発行の再開にあたって	3	■ 活動記録 ほか	7
■ 「緑の洞門」その後	4	■ 余話閑話	9
■ みんなのため、地球のために	5	■ 「山の手入れ」風景から	10

.....
当会名称の変更について
.....

昨年6月の名称変更をご説明します。

○旧:「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」

この名称は1998年の設立以来のもので、ただ、特に「特定非営利活動法人」となっているからは、頭にこれを付すと長すぎるので、略称の「北鎌倉台峯トラスト」や通称の「なださんの会」もよく用いられてきました。

「後世に伝える」ものは「北鎌倉の景観」とあります。当時は世上も山ノ内や台など北鎌倉から見た緑地景観を守ろうとする気運が強かったようです。(市の「基本構想」でも「北鎌倉方面からの緑地景観の維持」が台峯北東部分の保全方針として筆頭にある)

しかし、当会では同時に開始させた「山歩き」を行ううち次第に里山としての緑が大切と認識されるようになったようで、4年遅れて始めた「山の手入れ」の内容も当初の山道整備から里山保全に。即ち守るべき緑は「町からの景色」から「生態系」に、関心や活動の場も台峯の北東側斜面から里山の広がる南西側に、中心が移っていきました。

次に「基金」とあるのは、当初から英国ナショナル・トラスト運動を範として、人々から資金を集め、これによって土地を購入、その自然を守って行こうとしたことによります。ところが、2021年に会は特定非営利活動法人としては解散し、任意団体となりました。既に当会は2009年に1,354万円を市あてに寄付していましたが、解散にあたっては更に基金残金約279万円を全額寄付する必要があります、その結果新団体には資金が

一旦一切無くなりました。「基金」を名乗るのはおこがましい状況となった訳です。

しかし、従来の名称は広く知られ愛着もあったこと、また改名するなら旧名称を他の会で使用したいといった声が聞こえたことなどから、当時は改名しないままとなりました。

○新:「北鎌倉台峯 緑の会」

2024年春に交替・新任した当会 Web サイト担当幹事の尽力で、そのデザインやアドレス等が今のものに一新されました。ところが会の名称や略称を入力しても新サイトが上位に検索されない、または全く検索されないといった事態が当初続いたのです。対策の一つとして、この際に会の実態を示す名称に変更しては、という声が「山の手入れ」活動の中などで上りました。

即ち、既に活動は「緑」の生態系保全に移っており、「景観」とは結び付きにくい。関係深い「北鎌倉」は残すも、主に活動する台峯南西側は地名として山ノ内や台ではなく、旧山崎村の小字「台峯」だから、「北鎌倉」だけでは不足。また、既存の「かまくら緑の会」などとの区別や、当会旧名との繋がり、シンプルさも重要、。なお、改名は新たな参加者募集にも資すると期待されました。

このため関心ある方々から名称案を募ったうえで、当会規約に基づき幹事による決を採ったところ、昨年6月に「北鎌倉台峯緑の会」に決した次第です。

この他にも Web サイト内容の充実など関係者の苦心の結果、幸い容易かつ上位に検索されるようになりました。「山歩き」などの行事では新たな顔も拝見されます。成果を得ていると言えるでしょう。 本田 隆史

.....

当会報発行の再開にあたって

.....

この会報は休刊して約3年半になりますが、この度、従前同様のデザインながら、少し違った方法でご覧に入れることになりました。

この間に当会は特定非営利活動法人としては解散、任意団体として再出発の上、会の名称も変更しましたが、併せてWEBサイトも一新、充実を図っております。

このWEBサイトの利用は従来の会報のような印刷物より、伝達の即時性や誰でもその場でアクセスできるという情報入手の容易性、また印刷や郵送などの不要化に伴う費用削減などの点で優れていますので、当会としてもこれを重用して参ります。

ただ欠点もあって、最たるものは保存性が弱いことでしょう。掲載の主体が無くなったりすると、すぐにそのWEBサイトも”Not Found”となってしまうのです。しかし、いつの日か当会が解散した後々も、その記録は何等かの形で残されるべきと思われます。

その点印刷物は個人で保存せずとも、図書館が保存して広く閲覧に供してくれます。現に今までに発行済みの当会報も、鎌倉市図書館の他に国会図書館において半永久的に所蔵、閲覧可とされているのです。

このように双方にはそれぞれ長所・短所があるので、なるべく両方とも用いることにします。具体的には、まず原則として、WEBサイト上で情報を開示した上、約半年毎に会報の形に編集し直して、同じくWEBサイト上に再録します。但し、情報の内容次第で、例外的に会報の形では再録しないもの、ま

た逆にその都度の開示はせずに、いきなり会報の体裁でのみ WEB サイトに掲載するものもでてくると考えられます。

こうした会報スタイルのページは当会が印刷の上、鎌倉市図書館などの先へは各号毎に都度送付、また国会図書館へは何回号分かを纏めて製本し、収蔵を依頼します。これにより何処でも容易に検索できるWEBサイトの情報は、図書館に足さえ運べば半永久的に閲覧できるようになる筈です。(但し、現時点では両館で従来通りに収蔵してもらえるか不明)

なお、一般の方々向けには、この会報を当会で印刷・送付等はせぬ代わりに、当会の WEB サイトが続く限りは、いつでもご自分でご覧頂けますし、必要ならご自分で出力をお願いします。

当会WEBサイトの情報を会報のイメージでもご覧頂ければ幸いです。

本田 隆史

<国会図書館収蔵図書の検索結果より>

(((国立国会図書館サーチ
NDL SEARCH

雑誌 北鎌倉だより:会報 > 巻号 (1-44):1999.6-2021.10



北鎌倉だより:会報
(1-44):1999.6-2021.10

北鎌倉だより:会報
(1-44):1999.6-2021.10

国立国会図書館請求記号 Z72-V705
国立国会図書館蔵書ID 031854428

<鎌倉市図書館所蔵図書の検索結果より>

タイトル	北鎌倉だより NO.26~44 (最終号) 杓 かなづき 会報
出版者	北鎌倉の景観を後世に伝える基金 北鎌倉台筆トラスト
形態事項	30cm
NDC9(NDC8)	(519.8)
URL	https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/opw/OPW/OPWSRCI

.....

「緑の洞門」その後

.....

1. その問題

北鎌倉駅下りホーム脇の小さな手掘りトンネルが開発計画により破壊されそうになったため、史跡保護などの観点から市民らが反対運動を起こしたところ、意趣返しなのか、地権者の一部が通行に反対し、これを受けて市が封鎖、通行不能にしまいました。

その後の市の方針転換や市議会による呼びかけに関わらず、駅とその北東方面との交通が遮断されているために、お年寄りも大回りの上、段差のある踏切の横断や危険なバス通りの通行を余儀なくされたまま、10年にもなるのです。

2. 当会による協力

当会は、前身の「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」時代からこれを大きな問題として捉え、本件通行再開を求める運動の中心的役割を担う「北鎌倉緑の洞門を守る会」に協力してまいりました。公式にはその支援団体として名を連ねていませんが、「～基金」の2018年総会では「～守る会」の共同代表鈴木一道氏に講演頂きましたし、また本誌も2015年3月発行の第31号以来ほぼ毎号の紙面をこの問題に割いて、読者の皆様に訴えかけてきました。

また、個人の立場ながら、当会代表（「～基金」時代は理事長）の出口克浩が「～守る会」に参加、「活動の支援隊の一員として、この10年、当会の活動外の土、日、休日は北鎌倉の駅を降りた観光客へのチラシ配布、保存の説明と併せて、現地の草取り、植え込みの手入れ等の活動に奮闘して参」ったとのこと。

3. 本誌前号でのまとめ

本誌の前号（第44号）では、その時点（もう3年半前ですが）で既に状況は膠着していて大きな進展がない中、次のように記述して纏めています。【註：以下()内は今回補足】

「（「～基金」出口克浩）理事長によると、次の2点を中心に地道な反対活動がなされているとのこと。

- ・先般の選挙で選ばれた新市議員あてに個別の陳情活動を継続
- ・市の不作為につき横浜地裁にて損害（賠償）請求住民訴訟中。（2021年）10月20日結審予定

今後については予断を許しませんが、NPO 法人としての解散後も、任意団体として当基金は引き続きこの問題に関わって行くとしています。どうかご支援ください。」

4. 直近の状況と今後

それから更に約3年半、その間も状況はあまり進展せず、膠着しているようです。「～守る会」もそのブログ更新が間遠となっていて現況が分かりにくいのですが、「著名な写真家の関戸勇氏が事務局（代表を兼ねる）のお一人として活動されており、同会としては今後も運動を継続、推進していく」旨を伝え聞いています。

なお、個別の事柄は次の通りとのこと。

- ・北鎌倉駅での観光客へのチラシは2023年版の改訂も検討しつつ、配布を継続する
- ・2025年市議会議員選挙で選ばれた10名の新人に対して陳情活動を行う
- ・損害賠償請求などの訴訟は、「～守る会」ではなく、同様の趣旨ながら別の主体が行ったものだが、不首尾に終わったと聞く

当会としては、今後時間が掛かろうとも、この運動に協力して行く所存です。

.....

みんなのため、地球のために

.....

今、私たちが担うべき役割は「良い環境をつくって人々のもとへ届ける」ことはもちろんですが、もっと違う角度で、さらに広い視野で、その一つひとつを、しっかりと、ていねいに活動に結びつけることです。それが私たちのやるべきことだと考えています。

台峯緑地は自然豊かな貴重な宝の山です。長年、二つの活動を行って来ています。当たり前のことから、大切にしています。山の手入れと山歩きは体験をしながら保全ができます。毎月々同じ道を歩くことで山の営みを知る第一歩となります。見て・触れて・食しての体験を通して貴重な知識を会得しています。田植え、眺望、木々、草花、野鳥・昆虫・小動物類の観察や自然がおりなす四季折々を楽しむ事ができます。又、見方を変えれば生態系に大きく寄与しています。

私のお気に入りには、秋の山々の紅葉やハシノキの群生地が日に差し込み光り輝く光景はまさに水彩画を観ている様な感覚になり心が和みます。マイトレジャーとなっています。

皆で一緒に体を動かすのも健康的で楽しいことに気付かされました。

安全・安心の環境こそが 21 世紀の栄養素と言えます。一人ひとりの想いがみどりを守ることに繋がります。人の暮らしと「山」は

誰しもがベネフィットを受けています。都市の人も。森は人を育てます。

最後になりますがお世話をして下さっている篤志の方々に感謝を申し上げます。

2024.12.8

橘田 武彦



橘田 武彦氏撮影

.....

書き手の橘田武彦氏は、長年に亘り当会の山歩きや山の手入れに参加され、台峯の実質的保全にご協力頂いています。

職業上は微生物の研究に携わられ、また傍ら味覚のテストにも加わって来られました。文中に「食して」とあるように、木の実などを口に入れます。この12月の山歩きでもムラサキシキブの実の甘さを、「ビーツ(甜菜、砂糖大根)のよう」と表現されました。

.....

台峯の周辺 第2期①(通算②③) いちご

.....

「いちご」は、ややややこしい。日本語の「いちご」は草本性のオランダイチゴと台峯でも見られる概ねが木本性のキイチゴの両方に用い、普通は前者を単に「いちご」、後者を「木いちご」と呼ぶが、同じバラ科ながらそれぞれ別の属名らしい。確かに花托に瘦果の散る前者と小さな実の房のような後者とでは見た目も大分違うのに、なぜ同様の呼び名なのだろう。

英語ではオランダイチゴはストロベリー、キイチゴはラズベリーだが、他に例えばクワもマルベリーだそうで、ベリーとは一般に柔らかな食用小果実を言い、オランダイチゴ、キイチゴの両方を指すに十分な単語はない、らしい。

更に我が国では野生「いちご」にキジムシロ属のヘビイチゴの類を含めたりもするのだが、その中にはヤブヘビイチゴという種(しゅ)もある。ややこしい話に茶々をいれて余計ややこしく、薺蛇となるのが、この筆者の悪いウセだろう。

話を戻すと、日本の平地にはオランダイチゴ属の野生種が殆ど無く、西洋種が明治期に移入されるまで人口に膾炙したのはキイチゴだったので、かつては単に「いちご」といえばキイチゴを指した、とも聞く。益々ややこしい。

従って「いちご」などと略さず、木本性の「木いちご」に対し、草本性のオランダイチゴは「草いちご」と呼ぶこともある。ところがクサイチゴという種が現にあり、これが何と木本のキイチゴ属なのだそう。全くややこしい。だが、オランダイチゴを「木いちご」と呼ぶことだけは絶対はない。

ところで「シャルダン Shaldan」という芳香剤をお使いだろうか？イチゴの香りか知らぬが、エ

ステー(株)の社長鈴木明雄が好きな画家ジャン・シメオン・シャルダン Chardin から名付けたとのこと。本来は発音も綴りも相異なる訳だが、日本語でなら同様となろう。

優美なロココ時代の 18 世紀フランスにおいて庶民のささやかな幸せや静物を描いた、筆者も好きな画家である。中に我が国では従来「木いちごの籠」と題される作品がある。

しかし画集で観ても、籠中の一つ一つは先端が尖り気味で、萼が残るものも混じる。何より表面の質感が粒々状ではなく、膨らんだ花托にタネのような実の散在するオランダイチゴを現している。なぜ「木いちご～」となったのか。

原題<Le Panier de fraises des bois>は、辞書を引くと fraise は「いちご」、bois は「木」なので「木いちご」と訳したのだろう。が、bois には「森」の意もあり、熟語の fraise de bois として「野いちご」との訳が載る。ただ、この訳語では野生キイチゴをも示しうるが、キイチゴは英語同様に別の語で framboise とあり、原題はフランスに春を告ぐ野生オランダイチゴのことらしい。

実は、この画は 10 年程前の「シャルダン展」でも「木いちご～」として展示されていた。実物を前に意を強くした筆者は、せめて属を特定せず単に「野いちごの籠」とするようメモを会場に残したのだが、美術専門家には「絵は題名でなく自らの眼で観て」と素人からお願いする。

ややこしさに疲れ切った 本田 隆史



<Le Panier de fraises des bois>
Jean Siméon Chardin
Domaine Public, Wikipédia

活動記録 ★定例行事の記録 1 山の手入れ (2024/4～2025/6)

回	日	名	作業内容他
261	2024/4/20	8	畑跡地でササ刈込みやセイタカアワダチソウ等除去、谷戸の池廻りで灌木除去、カエル池整備
262	5/18	8	畑跡地でササ刈込みやセイタカアワダチソウ等除去、谷戸の池廻りで灌木除去
263	6/15	7	畑跡地でササ刈込みやカナムグラ除去、谷戸の池廻りで灌木除去、ヘイケボタル用のぬかるみ整備
264	7/20	9	畑跡地でササ刈込みやカナムグラ除去、谷戸の池廻りで灌木除去(酷暑であったが、安全に気を付けながら実施)
265	8/17	6	ヒューム管下流で繁茂した草木を除去。そのままでは、危険な上、小鳥たちは水浴びなどが出来ず、またホタルが棲息できない。水浴び時に小鳥のとまる、川面に伸びた枝はあえて残した。灌木除去による残材はとりあえず付近に仮置きしている。
266	9/14	5	畑跡地でカナムグラ、ササなどの除去。(7月までの作業により、ササやカナムグラなどは大分片付いていたが、8月は川辺の作業に集中したため、元に近い状態になっていた。更に当日も酷暑の為に体調不良となった者が出たため、カナムグラなどの除去作業を30分ほどで取りやめにした。)
267	10/19	6	畑跡地でカナムグラ、ササなどの除去
268	11/16	6	同上(秋になり草木の成長があまりないため、先月作業の効果が残っている)
269	12/14	5	同上(例外的に第2土曜日となるため、参加者少)
270	2025/1/18	6	同上 および「谷戸の池」堰堤下のヤマアカガエル産卵用に設けている湿地を整備する毎年恒例作業(泥が溜まっていたので取り除くと、見る間に水が染み出てきた。写真①)
271	2/15	8	畑跡地でササ、灌木などの除去
272	3/15	9	畑跡地および築やその上の平場でササや灌木除去(南事務所前の、台峯で一番早く咲くと言われるオオシマザクラの樹にもまだ花は全くなし。
273	4/19	6	畑跡地、築およびその上の平場でササや灌木などの除去作業。
274	5/17	—	雨天中止
275	6/14	6	前月作業ができなかったため草が伸びており、作業場所への道、また作業場所内の道を切り開くのがせいで終わった。
計	延べ	95	名

★定例行事の記録 2 山歩き (2024/4～2025/6)

回	日	名	観察テーマ他
306	2024/4/21	15	コースは通常通り(山ノ内公会堂に集合、東瓜が谷緑地を経て、台峯の老人の畑などで観察後、山崎子ども会館入口にて解散する。以下、特記のない限り同様)そののち、希望者は山崎小児童の守るキンランの花を見に。気候も良い中、盛会であった。
307	5/19	12	白い花を咲かせるツルや低木、初夏のトンボ カワトンボ、湿地や畑や道端のイネ科植物などを観察
	6/15 夕	15	「ホタルを観る会」を実施。ゲンジは数十頭、ヘイケは十頭ほどを観察。
308	6/16	10	ホタル生息地、6月の木の花、梅雨時に多いチョウなどを観察
309	7/21	8	ツル植物の花、「土用芽を探そう」、7月の木の花、大切な湿地の植物、黒いアゲハチョウの仲間。
310	8/18	9	花が目立つツル植物、よく似たツル植物、実がなるツル植物
311	9/15	10	9月に咲く花やそこに集まる昆虫の観察。具体的には、イヌビロ、イヌビエ、クワクサ、アキノタムラソウ、コムシジ(チョウ)、ツルマメ、ボントクタデ、カニクサ、トキワハギ、ヤブツルアズキ、アレチノハギ、ヌスビトハギなど
	同 上 夕	7	マツムシを聴く会。(南事務所に集合後「老人の畑」への2往復で、わずかに聴くことができた)
312	10/20	8	今回の観察内容は、寄生される植物、道端でよく見かける野草、湿地の花と昆虫、湿地で目立つ野草。具体的には、カゼクサ、アシボソ、ヒヨドリジョウゴ、オモダカ、エビヅル、タラ、オニドコロ、スズメウリ、コモチシダ、アオツヅラフジ、シロダモなど(解散後、希望者は山崎小入口より北鎌倉女子学園方向へ山道を辿って北鎌倉駅へ)

313	11/17	8	あまり知られていない紅葉・黄葉、よく似た草モミジ、枯葉のような木の実(毎年11月のこの会は、「なだ先生をしのぶ会」として開催。帰路旧山崎の切通し付近で路上に佇むアオサギ幼鳥を発見。数分後にはどこかに去って行った模様。(写真②)
314	12/15	12	カラスザンショウの実に集まる野鳥、不思議なミノムシ ヒモミノガを探そう、不思議なシダを見つけよう、ホトギスの種を集めて育てよう
315	2025/1/19	14	よく似た雑木林の樹木、最近増えてきた雑木林の樹木(年初につき、コースは山ノ内公会堂に集合後、東瓜が谷緑地、老人の畑を経て、北鎌女子グラウンド脇を峯沿いに進み、稻荷神社に立寄って安全祈願。なお、時間が押してきたので、ここで2名は離脱。残りの者は、もとの道を通して、山崎子ども会館入口にて解散。
316	2/16	16	常緑樹(照葉樹)
317	3/16	5	悪天候のため、山ノ内公会堂でのレクチュアに時間をかける。その後、東瓜が谷緑地にて早春の植物の観察
318	4/20	22	谷戸沿いに多い花、鳥
319	5/18	13	今年良く咲いている樹木の花。湿地のイネ科植物。花の授粉に大切なハチ。
320	6/15	5	6月の野草。食べられる6月の木の実。6月の花。
	6/22 夕	11	例年より1週間ほど早く、ゲンジボタルは盛りを過ぎ、ヘイケボタルは数多
計	延べ	200	名

★その他の記録（2024/4～2025/6）

年	月	日	事 項
2024	4		前年度末に新担当となった幹事の手により、当会 Web サイトのデザイン、内容ともに全面的に更新
	6	13	会の名称を変更(「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」から「北鎌倉台峯 緑の会」へ)
	8	8	しみどり公園課あてに台峯保全につき面会・要請(公園内に作業道具保管場所確保、公園協会による実施計画遵守、川沿いエリア整備作業および残材仮置き の容認)
	10	1	資料収集に協力した「海を渡った鎌倉のユリ」展が市中央図書館にて開催
	11	15	山崎・台峯緑地(都市緑地) 基本設計素案につき、市より関連団体向け説明会に出席。以後、一般市民向けを含め、数回にわたって説明会に出席、意見表明などにより2024年度内の基本設計確定に向けて市に協力。(本件に関しては本誌次号(46号)で報告の予定)
2025	2	28	公益財団法人鎌倉風致保存会創立60周年記念座談会に当会代表出口克浩が出席

写真① 後藤恵美氏撮影 写真② 小谷一夫氏撮影



★前44号正誤表
お詫びして訂正します

P.14 浄水場(誤) ➡配水池(正)
P.18 パイロット・プランツ(誤) ➡パイオニア・プランツ(正)

余 話 閑 話

1. 「海を渡った鎌倉のユリ」

以前、当会報上のコラム「台峯の周辺」に、大船のユリ栽培について書いたことがあった(2014年7月 会報 No.30)。その際に集めて使った資料の中でも、明治期に来日し大船のユリを描いた英国人画家の画文集やその中から当時別刷りしたらしい何点かの画などはネットで海外から取り寄せたものだったので、その後の処分に逡巡していた。

すると、数年して同じテーマで調査されている方がいらっしやると判ったので、これら資料はその方と市の図書館とにお譲りし、有効に利用してもらえる運びとなったことを当方としても喜んだ。

昨年になって、その方からメールが届き、所属する団体「コソガイ(鎌倉子育てガイド)」の「鎌倉玉縄ユリ・プロジェクト」として調査・研究した結果を標記の題にて市図書館で展示、また講演を行うとのご案内を頂いた。幸い展示だけは拝見できたが、よく調べられよく纏められていたので、感心した。

なお、協力者として会場に掲げられた氏名一覧の中に小生名があり、大いに恐縮した次第である。

(左は同展示会のパンフレット)



2. ヘクソカズラ

私事ながら半世紀ほど前に大阪に転勤したときのこと。街を歩くと、よく電柱に「はりやい」という広告が貼ってある。手芸が盛んで、「針や糸」などを売る店が多い地なのだ、と了解した。

さて、「山歩き」の観察テーマは時にツル植物となることがある。その中にはヘクソカズラという、ご婦人の前では口にするのも憚られる名前の種(しゅ)があり、悪臭を発するのでその名がつけられたらしい。

この花は灸(きゅう)をした跡の肌にも似るので、別名をヤイトバナと言う、とは久保幹事の説明である。しかし、皆さん何やら腑に落ちないようで、怪訝な顔つきであった。

それで思い出したのだが、お灸のことを関西では大和言葉なのか「やいと」と呼び、あれが鍼灸院の広告だったと判ったのは、2年後に大阪を離れたあとのことであった。

3. 甲子園

今年も夏は高校野球が大いに燃えている。そこで「半世紀も前だが、私の義弟は甲子園に出場したんだ」と話すと、皆さん感心してくれる。が、「神戸のN高校で、、」と続けると、皆さん「その高校って野球強かったっけ？」と半信半疑に。更に「野球部員でもなかったのだけど、員数合わせに頼まれて、やむなく、、」と付け加えると、「??？」と完全に嘘つきと思われてしまう。

嘘ではない。実は、予選にあたる兵庫県大会は当時2回戦から甲子園球場で行われることがあったらしい。それも試合編成上1回戦はなく、初戦の2回戦甲子園ではいきなり負けてしまったようだ。土を持ち帰ったかは、訊きそこなっている。

本田 隆史

「山の手入れ」風景から

① 始めに打ち合わせ お子さんの参加も

2024/2/17



② 当会物置から道具を手

2025/7



③ 作業前に模範

2025/2/15



④ 本番作業

2025/2/15



⑤ 終了後は道具の手入れ、後片付け 2023/6/17



⑥ 休憩時には野点も

2025/3/15



(撮影:②は小谷一夫氏、②以外は桐山大氏)

★毎月第3日曜日の「山歩き」の前日土曜日に行っています。当会 WEB サイトに案内があります。是非ご参加下さい。お待ちしております。

「北鎌倉だより」 会報 通算45号(第2期 第1号) 発行日 2025年7月31日

発行者 北鎌倉台峯 緑の会 事務局 248-0011 鎌倉市扇が谷3-2-12 本田方 Web サイト <http://daimine.jp>